用語解説

東御廻り（あがりうまーい）

琉球の創世神アマミキヨが渡来し、住みついたと伝えられる知念・玉城の聖地を巡拝する行事。

首里城から見て、大里・佐敷・知念・玉城を東四間切または東方（あがりかた）ということから、知念・玉城の拝所巡礼を〈東廻り〉と称した。久高島は麦の発祥地、知念のウファカルと、玉城の受水走水（三穂田）は米の発祥地として国王及び聞得大君が参詣したことから、後世、沖縄中の各門中（父系の血縁集団）も拝むようになったという。

御新下り（おあらおり）

聞得大君が最高神職に就任する儀式。首里における儀礼を終え、大里間切与那原（おおざとまじりよなばる）にあったいくつかの要所を経て、知念間切（ちねんまじり）にある斎場御嶽に入り、２日間に及ぶ数々の儀式を執り行った。

聞得大君は、聖水を額に付ける「御水撫で（うびぃなでぃ）」の儀式で神霊を授かり、神と同格になったといわれる。御仮屋（うかりや）が建てられたり道路が整備されたりと、その準備には数か月も及んだという。琉球王国で最大規模の神事。

聞得大君（きこえおおきみ）

聞得大君とは「最も名高い神女」という意味で、琉球の信仰における神女の最高位の呼称。聞得大君は、琉球王国最高位の権力者である国王と王国全土を霊的に守護するものとされた。そのため、国王の姉妹などおもに王族の女性が任命された。

知念間切の総地頭職の位につき、琉球最高の御嶽である斎場御嶽を掌管した。

初代（1470年）から１５代（1875年）までの約400年余りにわたって、琉球王府の神事を担った。

久高島（くだかじま）

琉球王朝時代から今に至るまで数々の神事が行われてきた、神の島と呼ばれる島。

知念（ちねん）半島の東約5kmに位置し、周囲7.75km。琉球開びゃくの祖アマミキヨが天から降りて最初につくったとされており、五穀発祥の地でもある。歴代の琉球国王は17世紀まで2年に1回久高島参詣を欠かさなかった。12年に1度、午年に行われる祭事・イザイホーに代表される神秘的な祭事が今も残っているため、民俗的に貴重な島として注目されている。

緑の館・セーファ

入館のお知らせ

TEL/FAX：098-949-1899

開館時間

11月～2月　　9：00～17：30
（最終チケット販売16:45／最終入館17:00）

3月～10月　　9：00～18：00
（最終チケット販売17:15／最終入館17:30）

休 息 日

2017年　11月18日（土）～11月20日（月）
2018年　　6月14日（木）～ 6月16日（土）
　　11月 8日（木）～11月10日（土）

駐車場は南城市地域物産館前及び岬公園をご利用下さい。

●住所／南城市知念字久手堅539
※チケットのお求めも物産館のみとなっております。

記念スタンプ

一般社団法人 南城市観光協会
TEL:098-948-4660
南城市 文化課
TEL:098-946-8990
南城市 観光商工課
TEL:098-946-8817

Sêfa-utaki
THE WORLD HERITAGE

琉球開びゃく伝説にもあらわれる、
琉球王国最高の聖地

ようこそ！
ハートのまち南城市へ

NANJO CITY

沖縄県　南城市

斎場御嶽とは

御嶽とは、南西諸島に広く分布している「聖地」の総称で、斎場御嶽は琉球開びゃく伝説にもあらわれる、琉球王国最高の聖地です。

御嶽の中には六つのイビ（神域）がありますが、中でも大庫理・寄満・三庫理は、いずれも首里城内にある部屋と同じ名前を持っています。当時の首里城と斎場御嶽との深い関わりを示すものでしょう。

はるかなる琉球王国時代、国家的な祭事には聖なる白砂を「神の島」といわれる久高島からわざわざ運び入れ、それを御嶽全体に敷きつめました。その中でも、最も大きな行事が、聞得大君の就任式である「御新下り」でした。斎場御嶽は、琉球国王や聞得大君の聖地巡拝の行事を今に伝える「東御廻り」の参拝地として、現在も多くの人々が訪れ、崇拝されています。

聖地を訪れる方へのお願い

※敬う心構えで
聖地は祈りの場所だということを忘れないで。

※聖地内にあるものを持ち出さない
石や動植物を記念に持ち帰らないでください。

※香炉を踏まない、動かさない
拝所にある四角い石が香炉で、神聖なものです。踏んだり、動かすのは厳禁です。

※ガイドがいるところではその案内に従う
独特の価値観や文化を知るためにもガイドの解説に耳を傾けてください。

※祈りをさえぎるのはNG
拝みをしている人たちにみだりに声をかけたり、写真を撮ったりしないでください。

※ゴミを出さない
聖地を美しく保つため、ゴミは必ず持ち帰りましょう。

出土した資料と遺構

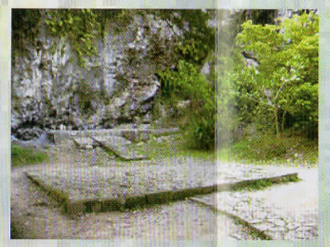
池

④ シキヨダユルとアマダユルの壷

二本の鍾乳石から滴り落ちる「聖なる水」を受けるため、二つの壷が据え置かれています。この聖水も拝所です。

③ 寄満(ユインチ)

寄満とは、王府用語で「台所」を意味しますが、ここで調理をしたわけではなく、貿易の盛んであった当時の琉球では、世界中から交易品の集まる「豊穣の満ち満ちた所」と解釈されています。



② 大庫理(ウフグーイ)

御門口から登っていくと左手に見える最初の拝所です。大広間や一番座という意味を持っており、前面には、石畳の敷かれた祈りの場(ウナー)があります。

① 御門口(ウジョウグチ)

御嶽内へ入る参道の入口です。右側には、六つの香炉が据え置かれていますが、これは御嶽内にある拝所の分身とされています。

緑の館

国道331号

至 与那原町

← 至 八重瀬町

知念岬公園 ↓

物産館
(発券所・駐車場)

Sêfa-utaki
THE WORLD HERITAGE

⑤ 三庫理(サングーイ)

三角形の空間の突き当たり部分は三庫理。右側の岩の上がチョウノハナで、それぞれが拝所となっています。また左側には海の彼方に久高島を望むことができます。

ウローカー

琉球王朝時代、斎場御嶽に入る際に、ここでみそぎをしました。
※足元にご注意下さい。

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」
(Gusuku Sites and Related Properities of the Kingdom of Ryukyu)

斎場御嶽出土品(国指定重要文化財)

斎場御嶽からは、中世から近世までの様々な資料が出土しました。

その中でも、特に注目されたのが金製を含む勾玉や、中国の青磁器・銭貨などが一括して見つかったことです。御嶽という聖地の、さらに気高い三庫理から出土した状況により、当時の琉球信仰を考えるうえで極めて貴重な資料です。

発掘調査で確認された三庫理(サングーイ)前の排水溝

発掘調査の結果、様々な遺構が確認できました。石畳の参道の下をくぐりぬける排水溝や、祀りの場を清めた白砂の堆積などがそれです。

その他、重層的な遺構から重要な儀式のたびにこの場所を整備してきた様子などがわかってきました。